

土から育てる大規模畜産経営

鹿児島県鹿屋市 平松グループ

鹿児島県鹿屋市に本社を構える平松グループ（平松正弘代表取締役）は、グループ全体で約1万3000頭の飼養頭数を誇る和牛一貫経営である。その経営内容は非常に多岐に亘るため詳細は本編でお伝えするが、根幹となっているのは「土から育てる和牛」という理念。10頭規模の繁殖経営だった当初から、牛を育てるには餌がいる、その餌は土が作ると、畑での飼料作物作りに力を入れてきた歴史がある。現在は自らTMRセンターを設立して飼料基盤を確立し、繁殖、肥育、経産牛肥育、精肉の販売に飲食店経営、そして堆肥はすべて自社の飼料畑に還元と、循環型畜産を確立している。一方でまた経営的にも様々な効率化、生産体制の安定化が図られており、これだけの飼養頭数でありながら本社農場の総従業員数は50名程度に留まっている。ここでは本社農場内の特徴的なポイントについて写真で紹介する。（詳細は30頁より）



繁殖牛舎。妊娠済みの牛たちが1群約300頭の巨大フリーバーンで過ごしている。飼料は繁殖用のTMRのみ



分娩舎。分娩はほぼ親任せだが、個体確認のために従業員1名ずつ交代で夜勤対応している。なお同社には建築部門もあり牛舎は手作り



分娩後しばらくは親子で集中管理。子牛が首につけているのは、最近導入した「@MOWMENT」のセンサー。子牛の活動量を測定し、人の目で見ると早くも異常を察知する。平松グループが導入第1号で、早期発見・早期治療に大きな効果を上げている



最も驚きなのは、この飼養頭数でありながら人工哺乳ではなく3ヵ月齢まで親付きにしていること。本社農場には、このような親付き牛舎が大量に並んでいる。親牛が食べているのは授乳期用に栄養価を高めたTMR。親5・子5の1群で、子牛だけが入れるスペースも作られている



肥育に向けた育成段階の牛たち。育成専用のTMRでフレーム作りを意識している。子牛販売をしていないためあえて太らせることはせず、肥育への移行時の体重は去勢で290kg程度



平松グループでは全ステージでTMRを給餌しているが、肥育段階ではもちろん配合飼料も与える。先に配合と稲ワラ、その後にTMRという流れ。仕上期にはデントコーン主体のTMRを多給する。配合の給与には自動給餌機を使用



こちらは経産牛肥育。平松グループの大きな特徴のひとつであり、自社ブランドの「マザービーフ」として精肉・小売部門で人気を博している。7~8ヵ月間しっかりと、デントコーン主体の発酵TMRで肥育された経産牛は風味と脂質に優れ、高い評価を得ている



TMRセンター内の飼料原料。デントコーンは1年以上寝かせてから混合し、ラッピング後も寝かせて発酵TMRとする



本社だけで約120haのデントコーン畑を有するなど飼料作りに力を入れており、飼料の安定と機能性向上のための投資は惜しまない。こちらのハーベスターは7000万円の代物だが、収穫時にデントコーンの子実裁断とすり潰しをすることで、発酵TMRの消化性向上に寄与する



ズラリと並んだTMRのラップ。TMRは自社のセンターで70t/日が製造可能。現在新たなセンターを建設中でさらなる製造量アップが見込まれる



TMRの給餌は特注でスクリューを装着したショベルカーで行い、省力化を図っている



広大な牧場かつお産なども毎日のことのため、牛の移動も省力的に。フォークリフトに対応した特注のケージで運んでいる